

4設備の解体撤去工事における作業環境測定結果

設備	種類	作業時 ^{※1} (H25~H30)	測定値			
			工事前	工事中		工事後
GB(内部)設備	PCB	—	0.0005(GB室)	0.0017(GB室)		0.0006(GB室)
	DXNs	—	— ^{※2}	— ^{※2}		— ^{※2}
GB(本体)設備	PCB	—	0.0002 (GH内)	0.0003(GH内)		0.0002 (GH内)
	DXNs	—	— ^{※3}	0.60		0.21
粗解体設備	PCB	0.0004~0.0071	0.00042	フェーズ1 0.00038	フェーズ2 0.00028	0.00016
	DXNs	3.9~31.0	0.89	1.0	0.54	0.44
破砕設備	PCB	0.0005~0.0132	0.00026	フェーズ1 0.00016	フェーズ2 0.00047	0.00016
	DXNs	2.0~15.0	0.55 1.1	1.1	2.5	0.43 0.48
VTR設備	PCB	—	<0.0001	<0.0001		<0.0001
	DXNs	—	0.072	0.23		0.20

【作業環境管理濃度】<PCB>0.01 mg/m³以下 【管理すべき濃度基準】<DXNs> 2.5 pg-TEQ/m³以下
 ※1: GB及びVTR設備: 法令対象外設備であり、PCBはGB設備内やタンク内などに密閉されているため測定していません。
 ※2: GB内部の公定測定はパネルを外す必要があり、PCBが拡散するおそれがあるため測定していません。
 ※3: GH(グリーンハウス)設置後であり、工事開始前のため測定していません。

ダイオキシン類(DXNs)濃度とその内訳

先行工事実施時の排気中DXNs濃度は全てDL-PCBなことから、大気中DXNs濃度の大半を占めるPCDFsを上昇させる要因とはなっていません。

	'19.7.18	'19.8.30	'20.8.3	'20.8.21	'20.9.23	'20.10.20
大気	Total-DXNs	—	0.056	—	0.023	—
	PCDFs	—	0.036	—	0.015	—
	PCDDs	—	0.014	—	0.0039	—
	DL-PCB	—	0.0058	—	0.0045	—
排気 (1G1 or 1G6)	Total-DXNs	0.044	—	0.0087	—	0.0063
	PCDFs	0	—	0	—	0
	PCDDs	0	—	0	—	0
	DL-PCB	0.044	—	0.0087	—	0.0063
	← GB内部: 6/17~8/8		← 粗解体設備: 7/8~10/5		← GB本体: 9/10~11/12	
	'20.11.19	'21.1.26	'21.2.19	'21.3.15	'21.3.25	'21.7.5
	0.053	—	0.71	—	0.20	—
	0.036	—	0.52	—	0.14	—
	0.013	—	0.16	—	0.051	—
	0.0039	—	0.027	—	0.0098	—
単位: pg-TEQ/m ³	—	0.0051	—	0.0037	—	0.0074
排気測定試料時間: 4時間	—	0	—	0	—	0
大気測定試料時間: 168時間	—	0	—	0	—	0
	—	0.0051	—	0.0037	—	0.0074
	← 破砕設備: 1/4~4/23			← VTR設備: 5/24~9/2		



環境省

Ministry of the Environment

安定器・汚染物の処理について

2022年2月

環境省環境再生資源循環局廃棄物規制課 / PCB廃棄物処理推進室
中間貯蔵・環境安全事業株式会社

PCB廃棄物処理対策の経緯



1954年(昭和29年)	PCBの国内製造開始(旧 鐘淵化学工業、旧 三菱モンサント化成)
1968年(昭和43年)	カネミ油症事件発生(PCBを原因とする食中毒事件)
1972年(昭和47年)	行政指導(旧 通産省)により製造中止、回収等の指示
1973年(昭和48年)	(財)電気絶縁物処理協会が、処理施設の立地に向けた取組を開始

電機機器メーカーが中心となって設置

- 焼却方式による施設の設置を目指す
(旧 環境庁が高温焼却の実証試験)
- 焼却方式による処理施設については、排ガス問題が忌避され、地元住民の理解が得られず

11,000台が紛失
(平成10年 旧厚生省調査)

約30年間で全国39カ所にて処理施設立地が試みられるが、すべて断念

2001年 スtockホルム条約(POPs条約)
(令和10年までのPCB廃棄物処理)

2001(平成13年)	PCB廃棄物特別措置法の制定
	環境事業団法の改正 公害防止施設の建設譲渡事業等を行っていた同事業団の業務としてPCB処理事業を追加

環境省は、環境事業団(現 JESCO)を活用した、「化学処理」による処理施設の整備に着手

北九州事業所における高濃度PCB廃棄物の処理



平成16年 北九州事業所(1期施設)の操業開始

- 地元の皆様の御協力を得て、全国に先駆けてJESCO北九州事業(第1期処理施設:変圧器・コンデンサー等の処理)において、岡山県以西の17県分の処理を開始。
- その後、平成17年に豊田、東京、平成18年に大阪、平成20年に北海道室蘭が順次稼働。

<主なPCB廃棄物>



トランス



コンデンサ



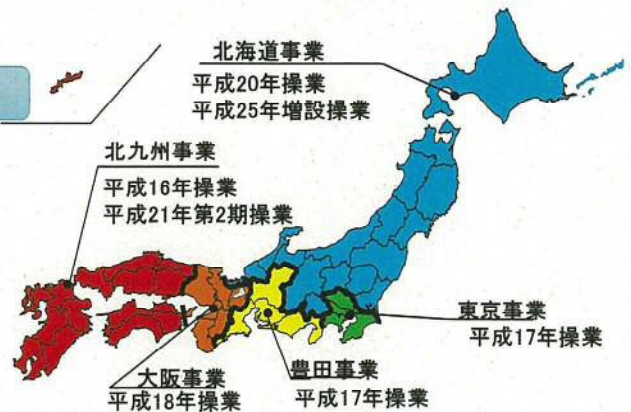
安定器

平成21年 第2期処理施設の操業開始

- 第2期施設(安定器等を処理するプラズマ熔融設備)の稼働開始。

平成25年10月 PCB処理基本計画改定の要請

- 平成26年4月に要請を受諾いただき、平成28年7月であった処理期限を、北九州事業所で処理する変圧器・コンデンサー等は平成31年3月、安定器・汚染物等は平成34年(令和4年)3月にそれぞれ延長。
- 第2期施設(安定器・汚染物等)の処理対象エリアに大阪事業エリア、豊田事業エリアを追加し、西日本全体の安定器・汚染物等の処理を開始。



(参考) JESCO北九州事業の概要



〔事業実施主体〕 中間貯蔵・環境安全事業(株)(JESCO) [約60名体制]
〔運転会社〕 北九州環境プラントサービス(KEPS) [約280名体制]

【第1期処理施設の概要】

〔操業開始〕 平成16年12月

〔処理対象物〕 トランス・コンデンサー等

〔PCB処理能力〕 1.0t/日 (PCB分解量)

※平成30年度末までに約6.2万台の処理を完了し、解体撤去工事中。

【第2期処理施設の概要】

〔操業開始〕 平成21年7月

〔処理対象物〕 安定器・汚染物等

〔PCB処理能力〕 10.4t/日 (安定器等重量)



- 〔交通のご案内〕
- JR鹿児島本線 戸畑駅から車で約20分
 - JR筑豊本線 若松駅から車で約15分
 - 新幹線 小倉駅より車で約40分
 - 北九州空港から車で約60分